

令和六年三月二十四日野分会東京例会

無印…入選

…準特選

○…特選

◎…特特選

廣太郎先生出句

湿原の空は鈍色鶴帰る

引鶴の万羽に空の重くなる

国生みを今に引き寄せ伊勢参

小澤逝くポリーニも逝く鶴帰る

この人もあの人も伊勢参かな

相沢文字

・引鶴の別れを告ぐる羽音かな

車椅子の膝に赤福伊勢参

川筋の道筋となり鶴帰る

引鶴の鳴き声里を巡回す

父母の願ひ託され伊勢参

荒井桂子

○日本の朝日を曳いて鶴帰る

○引鶴の平野に息吹ありそめし

○赤福は帰ると言はれ伊勢参

○せせらぎに放つところや伊勢参

荒川裕紀

○にしひがし言の葉集ふ伊勢参

・鶴引きて声なき里に戻りたる

・精進を落とす間も無く伊勢参

・引鶴の越ゆる三十八度線

・引鶴に託す和平のメッセーシ

岸田祐子

・引鶴の交差してゆく曇り空

・稜線に沿ふ引鶴の起伏かな

・朝市の旗立つてをり伊勢参

・引鶴の空の伸びたり縮んだり

・先頭の入替はりつつ鶴帰る

阪西敦子

寝転がりにくきベンチや鶴帰る

結局はラーメンにする抜参

菅谷糸

・伊勢参鳥居に古き月のぼる

・穏やかな空へ最後の鶴帰る

・引鶴の白き月まで昇りけり

・この里に鳴きし万羽の鶴帰る

塚本武州

○伊勢参木々の揺らぎに神の影

・蒼天の光と消えし鶴帰る

・静けさが空へ広がり鶴帰る

・かたまりの目は北方へ鶴帰る

・清流に邪気を洗ひし伊勢参

野澤幸彦

・引鶴や今一陣の風に乗り

・高らかに別れを惜しむ帰る鶴

・流れ行く白雲の如帰る鶴

伴 統子

○田を残し空を残して鶴の引く

○引鶴の直線面となり消ゆる

・引鶴や飛行機雲を引き連れて

・潔く鶴帰りけり空青し

・固唾呑む海に引鶴高くなる

松藤素子

◎引鶴の覚悟を乗せてけふの風

○正宮に向かふ神馬や伊勢参

・人生の転機となりし伊勢参

・引鶴や鶴の名のつく酒を飲む